



第6号 ご挨拶

今年で 4 回目となる「KPMG グローバル CEO 調査」は、世界の 11 カ国の 1,300 名の CEO を対象に行われました。（うち、中国本土と香港の CEO は 125 名が対象）。破壊的で急速に変化する環境の中で、世界規模の調査結果に焦点を当て、彼らの投資の優先順位、成長戦略、関心事について貴重な洞察を提供しています。中国の CEO は成長見通しに対する楽観的な見方と、先端技術への投資や M&A を追求する意向を示しています。重要な調査結果の 1 つとして、中国の CEO が世界経済と各業界の展望についてより前向きになり、会社の成長見通しについて圧倒的な自信を持ち続けていることです。

中国で事業展開している日本企業の経営陣の皆様は、今後の中国での事業展開を、今後 5 年後、10 年後といったスパンでどのように見据えていらっしゃるでしょうか。今のままの継続でいいのか、変化に対応し続けるための体制作りを始めるのか。中国企業のスピードに引き離されないように、日本企業の強みを活かすためにはどうすべきか。できることから着実に取り組んでいく必要があります。

KPMG 中国 GJP 中国総代表 高部 一郎

1. グローバル CEO 調査 2018（中国版） – 成長に向けたコラボレーションとイノベーション

中国の CEO は、これまでの成果と一致して、イノベーションを、事業を変革し、成長意欲を達成するための手段として、引き続き念頭に置いています。破壊的技術は、脅威というよりは、革新的な新興企業と協力し、よりデジタル化された労働力を創出し、ビッグデータ分析や人工知能などの先進技術に投資する機会と見なされています。

また、新興国市場への海外投資に注力し、M&A にも強い関心を寄せています。中国が世界経済に与える影響力が増大し続け、「一帯一路」や「グレート・ベイ・エリア」などの政策の発展とともに、グローバルの貿易、投資、経済成長を牽引しています。これは、中国の CEO にとって重要な機会です。

- > [全文はこちら](#)（中国語）
- > [全文はこちら](#)（英語）

2. 中国子会社 経営管理上の落とし所を探る（後編）

中国は、ビジネス展開するうえで無視することのできない巨大市場です。しかし、中国では独自の法規制がネックとなりビジネスが進まないということがあります。税務や会計上の問題と認識していたところ、重要な経営課題が潜在している場合もあります。中国子会社の経営課題については、「会計や税務および法務の視点をしっかりと押さえ、経営管理上の落とし所を探るというアプローチ」が必要と考えます。

前編では、「発票基準と月次決算」「滞留債権」「輸入価格の決定」「滞留在庫」「原価計算制度」「会計士事務所の選定」の6つを取り上げました。本稿後編では、「人件費」、「資金繰りと外貨管理」、「減損」、「会計不正」、「贈収賄」、「法令改正」の6つの経営課題をご紹介します。

> [全文はこちら](#)（日本語）

Contact us お問い合わせ先

GJP China Markets: gjpmarkets.china@kpmg.com

Tel: [+86 \(21\) 2212 2247](tel:+86(21)22122247)（日本語）